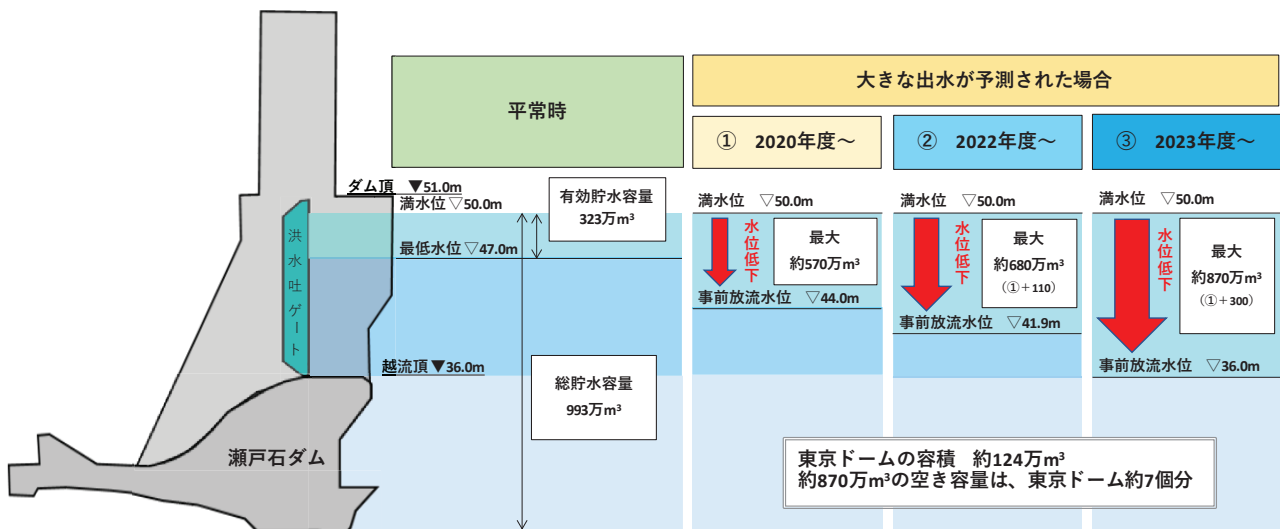


瀬戸石ダム 事前放流による水位低下



(注) 図中に記載の事前放流水位や空き容量は、最大の場合を示しており、気象予測や実際の出水状況により変更となります。

<事前放流による治水への協力実績>

年度	種別	事前放流期間	事前放流状況	最大放流量(m³/s)※
2022	台風14号	9月17日18時～9月18日10時	到達水位 EL.41.73m (目標 EL.41.9m) 確保容量 698万m³ (目標 680万m³)	5,550 (9月19日4時30分)
2023	台風6号	8月6日6時～8月10日17時30分	到達水位 EL.36.54m (目標 EL.36.0m) 確保容量 856万m³ (目標 870万m³)	2,032 (8月10日3時30分)

※ 洪水量2,000m³/s、ダム設計洪水量6,000m³/s

- 瀬戸石ダムでは、大きな出水が予想される場合、2020年5月に河川管理者、ダム管理者および関係利水者との間で締結した「球磨川水系治水協定」に基づき、事前放流による水位低下により調整池の空き容量を確保するとともに、通砂／排砂により同容量の維持・拡大を目指す運用を実施しています(上図①と②)。

なお、2023年度より、6月から9月までの間、通砂／排砂効果の更なる拡大を目指し、事前放流水位を最大でEL.36mまで低下させる運用を実施しています(上図③)。

- 今後も事前放流による水位低下を確実に実施し、流域の安全・安心に貢献してまいります。